



6月 かないやぐみだよ!

令和3年6月23日(水)

津田このみ学園

雨が降ったり気温が高くなったり、天気に移り変わりやすい季節となりました。園の周辺の田んぼに水が入り田植えが行われ、田んぼに周りのおうちや空が移っているのに気づき、「鏡みたい〜!」と、今しか見ることができない景色に驚いていました。



《オタマジャクシ育てるぞ!》

4歳児のAさんが、畑で大量のオタマジャクシを見つけてきました。他の子どもたちも興味津々で、みんなで何匹か数えてみることに! いっぱいいるのでなかなか数えられず、子どもたちなりに工夫して、水を入れた他の飼育ケースに移しながら数え、なんと38匹もいることがわかりました。オタマジャクシのエサを調べるために、絵本や図鑑をじっくりと見るAさんと5歳児のBさん、Cさん。「野菜とかつおぶして書いてある!」「こっちにはごはんと金魚のエサって書いてあるよ!」「野菜ってなんだろう? キャベツなら家にあるから持ってこよか?」と調べたことを共有し、次の日にさっそくエサを持ってきて、ごはんや野菜をたくさん入れ、オタマジャクシの口がパクパク動くのを嬉しそうに眺めながらとても可愛がっていました。



しかし次の日、大事件が発生!! 登園してオタマジャクシを見てみると、水がとても臭く、全部死んでしまっていました。なぜ死んでしまったのか集まりで話し合うと、「エサを入れ過ぎてお腹が痛くなった」「食べきれなかったごはんが腐ってしまっていたのかも」「水がめっちゃ臭かったから水を変えなあかんかった」と、友達と原因を一生懸命考えて意見を出し合い、オタマジャクシの命としっかりと向き合う姿が見られました。

オタマジャクシのお墓を作り畑へ行くと、また新しいオタマジャクシを発見! 「もういっかい育てたい!」という子どもたちの強い思いが伝わってきて、もう一度オタマジャクシをかなりや組で飼うことになりました。

『ごはんはちょっとだけいれる』『お水が汚かったらきれいにする』『次の日ごはんが残っていたら、捨てるから新しいごはんをいれる』という、お世話をするときに気を付けることを決め、エサの量を調節したり、水の臭いに気付いて進んで水を変えようとしたりし、毎朝元気に泳いでいるオタマジャクシの様子を見て喜び、カエルになる日を楽しみにしています。



《おねがい》

- 暑くなってきたので、子どもたちが自分で水分補給をできるように水筒を持ってきてください。
- 名前のない着替えやマスクがあります。持ち物には名前の記入をお願いします。